

その名はインマヌエル

マタイによる福音書 1 : 18 - 25



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年12月18日

降臨節第4主日

聖光教会にて

『その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」マタイ 1:23

キリスト教の内容を一言で言うとするれば、聖書全体のメッセージを一言で言うとするれば何でしょうか。それは「インマヌエル」です。「神は我々と共におられる」——このことを告げるのが聖書です。その「インマヌエル」をヨセフは、夢の中で天使から知らされました。

マリアの夫となり、イエスの父となるヨセフに、今日は目を留めてみることにしましょう。そのヨセフは、幸せな人としてではなく、苦しむ人、悩む人として登場します。今日の福音書の冒頭です。

「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。」マタイ 1:18-19

いちばん信頼している人を信頼できなくなった。もっとも愛している人から最大の打撃を受けた。これがヨセフです。婚約者マリアは身ごもっている。しかしそれは自分の子どもではない。マリアに何があったのか。ヨセフはひとりで悩み、考えました。行き着いた結論は、ひそかに縁を切る、ということでした。

た。そう決心したところに、神が介入されます。

「このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。
『ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マ
リアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の
子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の
民を罪から救うからである。』」マタイ 1:20-21

主の天使が、ヨセフの夢の中でこう言うのです。

「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。」

ここをギリシア語原文で確かめると、ただ「妻マリアを」
ではなく「あなたの妻マリアを」となっています。「すでにマリ
アはあなたの妻だ」と天使は言うのです。神が備えてくださり、
あなた自身が決意して婚約したあなたの妻マリアを、恐れずに
迎え入れなさい、と。

「マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。」

ヨセフの苦しみは、「マリアの胎の子はいったいだれの子なの
か」「どうして身ごもったのか」ということでした。その問いを
神が引き取られました。

「マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのだ。」

その子は聖霊によってマリアの胎に宿った。神がそれをなさ
った。それ以上考えて苦しむ必要はない。

天使はさらに言います。

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。
この子は自分の民を罪から救うからである。」 1:21

名付けるというのはその子の責任を引き受けるということです。消極的にではなく積極的に、その子の命と成長に対して責任を引き受ける——それがヨセフのなすべきことです。

この天使の言葉に続けて、マタイ福音書はこう言います。

「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神はわれわれと共におられる』という意味である。」 1:22-23

人間的に言えばあり得ないことです。しかしここには神のご計画がある。神がその民を罪から救うために、救いの業を開始された。やがて生まれる子どもはインマヌエル——神がわたしたちと共におられる——と呼ばれて、世を救う。その神の計画の実現のためにヨセフは選ばれたのです。

恐れるな、ヨセフ。ためらうなヨセフ。あなたのそばに、あなたと共に神がおられる。インマヌエルの神があなたを包んでいる。

起きて考えているだけであれば、ヨセフは永遠にもがき苦し

んだかもしれません。ここで、彼が眠っていたことに注意しましょう。眠りの中で彼の意志はまどろんでいて、神の意志が活動して彼に働きかけました。眠りと夢の中で、ヨセフは造りかえられます。マリアを疑い、迷い苦しみ、自分の考えで事を決めようとしたヨセフから、神の意志に信頼して従い、マリアを愛して受け入れるヨセフに変えられるのです。

「ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。」1:24-25

ヨセフは眠りから覚めたとき、天使が命じたとおりに、自分の妻マリアを迎え入れました。インマヌエル。神が共にいてくださることを信じて、マリアと共に神のご計画に身を委ねます。ここにインマヌエルの約束と祝福に生かされて生きるヨセフが誕生しました。幼子の誕生を前に、神を信じて良きことのために積極的に責任を引き受けて生きる、新しいヨセフが誕生したのです。

他方、マリアはどうだったのでしょうか。マリアはヨセフよりも先に、インマヌエルの約束を聞きました。天使ガブリエルが彼女のところに来て言いました。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

ルカ 1:28

「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」ルカ 1:35

マリアはおののきました、天使とのやり取りのうちに神の意志を受け入れる決意をし、インマヌエルの主に身を委ねました。

マリアとヨセフは別々にインマヌエルの約束を経験したのですが、これからは、二人が一緒にインマヌエルに包まれ、導かれます。ナザレからベツレヘムへの危険な旅にも、ベツレヘムに到着しても宿屋に泊まる場所がないという危機にも、神が共におられました。インマヌエルの守りと祝福があったのです。

インマヌエルは、マリアとヨセフ、またその時代の人々だけのことではなく、わたしたちのことでもあります。インマヌエル（神が共におられる）の約束は、わたしたちにも与えられています。

ところで「このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった」（マタイ 1:22）と言われていました。その預言者、インマヌエルを伝えた預言者とはイザヤです。

イザヤのインマヌエル預言の背景には、戦争と平和の現実が

ありました。紀元前8世紀、当時のユダの王アハズは東の大国アッシリアに頼り、軍備の拡張に明け暮れていました。預言者イザヤはこれに強く反対し、アハズ王に面会を求めて、主なる神の助けを真実に求めることを説きましたが、王は耳を貸そうとはしませんでした。

イザヤは、軍事同盟と軍備拡張によっては国を保つことはできないと訴え、こう言いました。

「戦略を練るがよい、だが、挫折する。決定するがよい、だが、実現することはない。神が我らと共におられる（インマヌエル）のだから。」イザヤ 8:10

イザヤは、インマヌエルの主が国こぞつての軍事路線を挫折させられる、と預言したのです。預言は的中し、やがてアッシリアの軍隊が大洪水のように押し寄せて、ユダ王国は死に瀕します。

これは今の時代への警告です。今、政府が推し進めている大軍拡路線は滅びへの道です。決して良い結果をもたらさないでしょう。

インマヌエルの主は平和の主。この方をまごころをもってこのクリスマスにお迎えしたいと願います。

祈ります。

かつてヨセフと共におられ、マリアと共におられた神さま、
あなたがわたしたちと共にいてくださいますように。そしてわ
たしたちに、平和の道を共に歩ませてくださいますように。み
子イエスのみ名によってお祈りいたします。アーメン